



国立大学法人
豊橋技術科学大学

IT食農だより

発行元：豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

住所：〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1

TEL: 0532-44-6655 FAX: 0532-81-5108 E-mail: manager@recab.tut.ac.jp

2021年12月15日

No. 83

植物工場マネージャー第10期生・IT食農先導士(土地利用型)第6期生が開講

12月4日(土)に最先端植物工場マネージャー育成プログラム10期生とIT食農先導士養成プログラム(最先端土地利用型IT農業コース)6期生の開講式が行われました。植物工場マネージャー10期受講生は8名、土地利用型IT農業コース6期受講生は2名で、うち農業及び農業関係者は4名です。開講式では、浴俊彦先端農業・バイオ



最先端植物工場マネージャー第10期生・IT食農先導士(最先端土地利用型IT農業コース)第6期生開講式(12月4日)

リサーチセンター長の挨拶から始まり、連携自治体の紹介、山内高弘同センター特任准教授によるプロジェクトの概要説明及びスタッフの紹介が行われました。その後、受講生・大学スタッフ・連携自治体関係者を交えて記念撮影、続くガイダンスでは、受講上の注意事項等が説明されました。休憩の後、早速第1回講義が行われました。これから1年4ヶ月間にわたるプログラムを通じ、共に学び合い、充実した時間を過ごされることを期待します。(文責：前田紀子)

6次産業化推進人材育成 第3回先進事例調査研修

11月13日(土)に東海地域の6次産業化推進人材育成の第3回先進事例調査研修として、G・ファームとたべりん王国を、受講生7名が訪問しました。

G・ファームの鈴木雄大さんからは同社の事業展開の経緯や6次産業化に関する独自の理念などについてお話をお聞きし、たべりん王国では施設見学とブルーベリーの加工を体験しました。前回まではオンラインで実施されたため実際に訪問しての先進事例調査研修は初めてということもあり、有意義な研修となりました。(文責 水鳥絵理)

ニューファーマーサポートコース 受講生が就労体験演習

10月16日(土)から12月19日(日)まで、ニューファーマーサポートコースの受講生(35名)が、3班に分かれ、

各自2日間、午前10時〜午後4時まで、農作業を体験する演習を野菜、花栽培農家で行いました。

演習先農家は、(1)山田裕也氏・植物工場マネージャー1期生(スプレーギクの栽培等)・愛知県豊川市)、(2)小澤岩次氏・植物工場マネージャー5期生(ミニトマト、柿の栽培)・愛知県豊川市)、(3)杉原善治氏(キク類の栽培)・愛知県田原市)、(4)アグリトリオほ場(野菜の栽培等)・愛知県豊橋市)です。

それぞれ、キクや野菜の定植作業やトマトの葉や腋芽の摘除作業等を行い、視察先の農家から、花、野菜の栽培方法や農業経営等について説明していただきました。

演習を行った受講生は、初めて農作業を行う方が多く、演習先の受け入れ農家



山田裕也氏 スプレーギクの定植作業(10月30日)

から、丁寧な作業説明や指導をしていただきました。また、その説明に対しても、受講生から活発な質問等が行われました。終了後、「作業は大変だったが、作業環境の整備がなされており楽しかった」、「障害のある方も簡単に作業できるような工夫されていて驚いた」等の感想もあり、各自、充実した2日間の演習となりました。(文責：山内高弘)



小澤岩次氏 ミニトマトの摘葉作業 (11月20日)

植物工場マネージャー9期生 第6回先端施設研修

11月18日(木)から20日(土)まで、最先端植物工場マネージャー9期生が、国内外の先端施設視察研修として、日帰り及びリモートによる県内外の植物工場や先端施設園芸状況等を視察しました。

視察先及び参加者は、18日(木)が、(1)農研機構 野菜花き研究部門 安濃野菜研究拠点(トマト等の

育種状況等…三重県津市)、(2)株式会社水耕研究所(イチゴ等の水耕栽培状況等…愛知県弥富市)を受講生9名が参加。19日(金)は、(3)富永農園 富永陽市氏・IT食農先導士3期生(ミニトマトの栽培…愛知県豊川市)、(4)愛知県農業総合試験場 花き研究室(花きの栽培試験状況…愛知県長久手市)を、新型コロナウイルス対策とバス予約の関係で、スマートフォンによるリモート中継視察を実施。20日が、(5)鈴木農園 鈴木春雅氏・6次産業化5期生(イチゴ栽培…静岡県掛川市)、(6)鈴木ファーム 鈴木永夫氏・植物工場マネージャー2期生、6次産業化2期生(葉ネギ栽培…静岡県浜松市)を受講生9名が参加しました。

東海地域の様々な研究施設、先端植物工場や施設園芸の栽培施設を見学し、各視察場所では、多くの質問



株式会社水耕研究所 (11月18日)

が熱心になされ、最新の栽培技術や経営等の知識を得ることができ、充実した3日間の研修となりました。(文責：山内高弘)

季節の花 ナンキンハゼ

学名: *Triadica sebifera*

ナンキンハゼは、トウダイグサ科ナンキンハゼ属の中国原産

の落葉樹です。タネから蠟(ろう)が採れるので、中国では古くからロウソクや髪油の原料として、植えられていました。日本に入ってきたのは江戸時代、同様に実用性を買われて導入されたようです。紅葉が非常に美しく、剪定である程度樹形がまとめられるので、庭木や街路樹、公園樹として広く植えられています。開花期は6月～7月頃で、枝の先端に黄色い花穂を付けます。花穂は長さ6cm～18cm、しっぽ状に垂れ下がります。先端にはたくさん雄花が付き、つけ根近くに数輪の雌花が付き、中には雌花を付けない花穂もあります。雄花の部分は咲き終わったあと、いずれ花穂から切り離されます。果実は三稜の球形で直径1.5cm、秋に黒褐色に熟して殻(果皮)がぱかりと開き、白いタネを3コ出します。タネは殻が外れた状態で枝にくっついたままのことも多

いです。ふやし方は、根伏せとタネまきで行います。根伏せは株元を掘って太めの枝を15cm～20cmくらいの長さに切って、5cm～10cmの深さに切り取った根を横向きに植えます。適期は3月下旬～4月上旬です。タネは採取して、白い部分を取り除いて、中の本体をまきます。

生育は、日当たりと水はけのよい場所を好みます。陽樹で半日影～日陰の環境では弱りやすいですが、やや乾燥気味の土壌を好みます。とても丈夫な樹木で、条件さえ合えば驚くほどのスピードで大きくなるので、剪定などの管理が重要です。剪定は2月か6月～7月に行います。伸びすぎている枝や、葉が込み入っている部分を切り戻して、樹形を整えましょう。葉がついている時期に剪定をすると、新芽や花芽を切り落としてしまう場合があるため、落葉期に行うのがポイントです。(文責：山内高弘)



ナンキンハゼの木と実